

普及活動現地情報

「農業現場では、今」



【日高振興局】農トレひだか第3回セミナーを開催～紀の川市の有機栽培農家を訪問～

令和6年3月号

和歌山県農林水産部経営支援課

(農業革新支援センター)

はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。

和歌山県 経営支援課 普及



< 目 次 >

	頁数
I 海草振興局	1-3
1. 河西農業士会 県外視察研修	
2. 和海地方農業士会 県外視察研修	
3. 和海地方農業士会女性部会研修会を開催	
4. 紀美野町農業士会 県外視察研修	
5. 食の交流会を開催（共催：和海地方生活研究グループ連絡協議会）	
6. 普及活動実績報告会を開催	
II 那賀振興局	4-5
1. 那賀地方農業士会連絡協議会女性部会（カトレア会）が総会を開催	
2. 紀の川市農業士会が総代会を開催	
3. 紀の川市環境保全型農業グループが総会・研修会を開催	
III 伊都振興局	6
1. 伊都地方生活研究グループ連絡協議会研修会がフラワーアレンジメント研修を開催	
2. 隅田地域農産物利用推進協議会が視察研修会を実施	
IV 有田振興局	7
1. 有田地方生活研究グループ連絡協議会がリーダー研修会を和歌山市・泉南市で開催	
2. 令和5年度有田地方農業士協議会女性部会・有田農業女子プロジェクト合同研修会を開催	
V 日高振興局	8
1. 農トレひだか第3回セミナーを開催	
VI 西牟婁振興局	9
1. 白浜町農業振興協議会研修会を実施	
2. ほおずき栽培研修会を実施	
VII 東牟婁振興局	10
1. 重点プロジェクト【半世紀を迎えた「くろしお苺」産地の体力強化】 ～いちごハダニ類の天敵防除実証ほ調査結果～	
VIII 農林大学校	11
1. 就職ガイダンスを実施！	

I 海草振興局

1. 河西農業士会 県外視察研修

3月7日～8日、河西農業士会が東京都及び埼玉県への視察研修を行い、会員10名が参加した。

初日は、東京都江戸川区でこまつなを栽培している小原農園を視察した。小原農園では、数年前より市場出荷から学校給食へのお荷に切り替えており、その経緯や苦勞した点の他、全体的な経営方針等について話を伺った。8日は、埼玉県のJA南彩岩槻農産物共販センターと有限会社若谷農園を訪問した。JA南彩では、真空予冷庫や生産者代表の方のハウスやお荷調整作業を見学し、若谷農園では、代表取締役の若谷茂夫氏より法人化のメリット・デメリットや、担い手を育成するための研修とその後のフォローなどについて話を伺った。

参加者からは、「お荷調整作業や作業機械、ほ場を見て参考になることが多かった」などの意見があり、現場見学や具体的な話に刺激を受けていた。



若谷農園の視察

2. 和海地方農業士会 県外視察研修

和海地方農業士会では3月25日に兵庫県と大阪府で視察研修を実施し、会員10名が参加した。

最初に兵庫県淡路市で観光農園を行っているグリナリウム淡路島を訪問し、収穫試食体験を行った。参加者は昇降自在ないちごの吊り下げ式ベッドに驚いていた。

次にAwaji Nature Farmで人材育成により農業関係人口を増やす取り組みについて説明を受け、農場内にある農家レストラン陽・燦燦で淡路島の食材を用いたコース料理をいただいた。

その後、大阪府吹田市へ移動し、アサヒビール吹田工場（アサヒビールミュージアム）を見学した。吹田市はアサヒビール発祥の地であり、今までの歴史の中で4大ビールメーカーの最下位に転落したことや復活のきっかけなどの説明を受けた。

本研修で、ただモノをつくるだけでなく「今までにないことをやってみよう」という視点や、時代や潮流を見極め、自由な発想でモノやサービスをつくるのが農業においても重要であると改めて認識した。



グリナリウム淡路島



Awaji Nature

3. 和海地方農業士会女性部会研修会を開催

3月26日、農業士会女性部会研修会を海南市農村婦人の家で開催し、会員5名が参加した。

「ハ〜ブ工房もくもく」の川内和子氏を講師に招き、ハーブフレーム作り講習を行った。川内氏からドライフラワーの作り方や保存方法、フレームにドライフラワーを配置するポイントなどを聞きながら制作し、会員は思い思いのステキな作品を仕上げた。

その後、令和6年度活動計画について話し合った。また、会長から今年度で農業士会を卒業される方にフラワーバスケットの贈呈を行った。



ハーブフレーム作り講習



出来上がった作品

4. 紀美野町農業士会 県外視察研修

3月27日、紀美野町農業士会が滋賀県への視察研修を行い、会員4名と役場担当者、JA営農指導員が参加した。

滋賀県農業技術振興センターでは、溝口農業革新支援専門員から滋賀県の農業士会活動と農業の現状について、日野栽培研究部長からは水稻の育種を中心とした話をして頂いた。

水稻ではみどり戦略と絡めて高温登熟性に優れる品種開発に取り組まれていた。会員からも活発に質問が出され、面積規模は違うが、参考になる点も見いだしていた。あったようだ。コロナ禍で開催できず久しぶりの視察研修であったが、会員同士の情報交換もできることから今後も積極的に行っていきたいとの意見も出された。



滋賀県農業技術振興センターの視察

5. 食の交流会を開催（共催：和海地方生活研究グループ連絡協議会）

3月4日、海南 nobinos において、和海地方生活研究グループ連絡協議会（会長：田端和美氏）は地産地消促進と情報交換により農村女性活動の活性化を図るため、「食の交流会」を開催し、会員と関係者等 31 名が参加した。

講演では、いなみの料理広め隊の代表小田美津子氏から、印南の郷土食「かきまでご飯」を次世代に伝えていきたいという思いから、手軽に親しんでもらうためレトルト商品「かきまでご飯の素」を開発・販売されたお話を伺った。

また、各市町の生研グループから、地域農産物をおいしく食べてもらう提案として、今回はブロッコリーに焦点を当て、ブロッコリーの白和え、ブロッコリーの中華あんかけ、ブロッコリー炒飯などのレシピを動画付きで紹介した。

参加者からは、「商品化する大変さを聞いてよかった」、「ブロッコリーの色々な食べ方を教えてもらえてレパートリーが増えてよかった」、「料理を作るのに動画で映してくれたのでよくわかった」などの意見があった。



小田美津子氏の講演



ブロッコリーレシピの紹介

6. 普及活動実績報告会を開催

3月22日、海南 nobinos にて、和海地方総合農政推進協議会（管内各市町、JA、農業共済組合で構成）、普及指導協力委員による普及活動実績報告会を開催した。報告会では、令和5年度の普及活動実績や、令和6年度以降の普及指導基本計画について議事が進行された。

初めに当課職員から令和5年度の普及活動実績として、「次世代につなぐ下津みかん産地活性化プロジェクト」、「和歌山市内での種ショウガ生産拡大」、「新規就農者の技術向上支援」、その他普及活動について説明を行い、参加者から意見を頂いた。続いて、令和6年度以降の普及指導基本計画について説明を行い、最後に各参加者の周辺の現状や今後の取り組みなどについて意見交換を行った。『匠の技 伝道師』として関わる中で、個人的に連絡をくれる人も、「担い手が農業を続けていけるような支援が必要」などの意見があった。

当課では、頂いた意見を踏まえて、来年度も関係機関と連携し、普及活動に取り組んでいく。



普及活動実績報告

Ⅱ 那賀振興局

1. 那賀地方農業士会連絡協議会女性部会（カトレア会）が総会を開催

3月8日、那賀地方農業士会連絡協議会女性部会（カトレア会）の総会が開催され、会員14名と関係者が出席した。議案は全て原案どおり可決され、新たな会長に林 澄代氏が選出された。

また3月6日に那賀振興局で農業士認定書授与式が行われ、新たに農業士に認定された4名が入会した。

新規会員は自己紹介を行い、「これまで、農家の横のつながりを作るのは難しいと思っていたが、これを機につながりを作りたい」と意気込みを語った。

続けて今年度で退会する4名の送別会では、退会する会員から「はじめは知らない人ばかりで不安だったが、各地区の人と話ができたり、仲間づくりができた」、「新しく入会した人もがんばってほしい」と新会員に向けてエールが贈られた。



新役員のみなさん

2. 紀の川市農業士会が総代会を開催

3月22日、紀の川市農業士会は、紀の川市粉河ふるさとセンターにおいて令和6年度の総代会を開催した。

総代会では、事業実績と決算、計画と予算及び一部の役員改選が議案書のとおり承認され、紀の川市農業士会は令和6年度の新たな活動へと動き出した。

総代会後の研修会では、今年度で解除となる指導農業士2名の方々にこれまでの農業の取組、農業士会に期待すること等について講演頂いた。この他、農業水産振興課から令和6年度県の農業支援事業について説明した。



来賓の挨拶



畜産農家の発表



果樹農家の発表

3. 紀の川市環境保全型農業グループが総会・研修会を開催

3月28日、紀の川市環境保全型農業グループ（会長：小林 元氏）の総会が開催され、会員26名と関係者が出席した。

総会では、議案は全て原案どおり可決され、総会後の研修会では、「バズる農園の秘密！Instagramで話題をつかむ運営術」と題して、合同会社さぷりぷらすの三浦真裕氏、吹地洋亮氏の講演が行われた。

三浦講師からは、「インスタグラムはAIが情報拡散させる。そのルールが分かれば効率的に情報を拡散することができる」、吹地講師からは「漠然とした内容ではだれにも届かないので、ペルソナ（架空のユーザー像）設定が大切。そのうえでデータ分析が大切」といったお話があった。

参加者からは「ハッシュタグの数はどれぐらいが適切か」、「講師自身が農産物売るなら、どういう内容の発信をするか」、「農業の他に、趣味や生活について発信するのはどうか」といった質問が出され、講師から「ハッシュタグは3~5個が適切」、「農産物を使った料理や農作業の発信がおすすめ」、「ビジネスと趣味を一緒に発信すると、雑多なアカウントになってしまうので、別のアカウントにしたほうが良い」といったアドバイスがあった。



インスタ講習会

Ⅲ 伊都振興局

1. 伊都地方生活研究グループ連絡協議会がフラワーアレンジメント研修を開催

3月7日、伊都地方生活研究グループ連絡協議会（会長：小林 由美子氏）は、会員相互の交流と技術習得を目的に、伊都振興局においてフラワーアレンジメント研修会を開催し、会員18名が参加した。

研修会の講師に、「フラワーファクトリー ル・レーブ」の奥 明子氏及び西畑伸子氏を招き、今回使用する花の一部が食用であることや、花の種類、切り方についてなどフラワーアレンジの基本的な知識についての講義を受けた。その後、会員は花の位置やかごの飾り方といったポイントの解説を受けながらそれぞれのアレンジに挑戦した。

出席者らは、「食べられる花があるとは知らなかった」、「研修会でみんなと会えて楽しかった」、「家でもまたフラワーアレンジをしてみたい」といった感想が聞かれた。



講義の様子



フラワーアレンジメントの様子

2. 隅田地域農産物利用推進協議会が視察研修会を実施

3月19日、隅田地域農産物利用推進協議会（会長：乾 幸八氏）は、自己研鑽とともに、会員相互の交流・親睦を目的に研修会を開催した。会員ら16名が出席し、奈良県宇陀市にある有限会社類農園と橋本市隅田町にある農業法人きのくに農業村を見学した。

有限会社類農園では、会社概要をはじめ、農業研修や直売所について説明を受け、生産ほ場を見学した。会員は「各直売所の販売状況や内容を教えてほしい」、「研修を受けた生徒はそのまま就農しているのか」といった質問を行った。

農業法人きのくに農業村では、ほうれんそう栽培施設を見学し、種苗管理や水耕栽培を行うための設備、収穫から出荷までの流れについて説明を受けた。



有限会社類農園のほ場見学



農業法人きのくに農業村の施設見学

IV 有田振興局

1. 有田地方生活研究グループ連絡協議会がリーダー研修会を開催

3月13日、標記研修会が会員35名参加のもと開催された。環境に配慮した商品開発の取組を学ぶため、花王㈱和歌山工場エコラボミュージアムを訪れ、スタッフの説明を受けながらミュージアム内を見学した。

次に、よってって道の駅みさき店を訪問し、泉州地方の特産品である水なすや、泉州タオルなどの販売形態について見学した。

また、青木松風庵月化粧ファクトリーを訪れ、主力商品「月化粧」の製造工程を見学した。

参加者らは熱心に見学し「身近な企業の商品開発を学ぶとともに、環境問題への配慮や自身のグループで製造している菓子類の新たな開発や販売方法を考えるヒントになった。また、「会員同士の交流を深めることができ、実りの多い研修であった」という感想が聞かれた。



花王㈱和歌山工場でスタッフの説明を受ける会員



「月化粧」製造工程を見学する会員

2. 令和5年度有田地方農業士協議会女性部会・有田農業女子プロジェクト 合同研修会を開催

3月22日、有田振興局において標記研修会が開催され、8名が出席した。

第1部はうめ研究所田嶋皓主査研究員が「うめの健康パワーと加工法豆知識」という演題で講演を行った。参加者からは「うめが体に良いことは知っていたが理解が深まった。もっとうめ料理を考えて食べようと思う」などの感想が聞かれた。



田嶋主査研究員の講演

第2部では、コロナ禍で中断していた意見交換会を再開した。「家庭と仕事の両立」や、県外から移住した方と地元の方の間で、有田地方の農業に対する日頃の思いについて意見を交わし、大いに盛り上がった。参加者からも「世代や出身地の違いがあるが、農業に対しての様々な熱い思いを聞くことができとても勉強になった」という感想が聞かれた。



意見交換を交わす参加者達

V 日高振興局

1. 農トレひだか第3回セミナーを開催

3月1日、農林水産振興課と日高地方4Hクラブ連絡協議会（会長：尾曾 匠氏）が共催で、日高地方の青年農業者や新規就農者等を対象に、青年農業者の能力向上を目的としてセミナーを開催した。

第3回となる今回は、環境保全型農業への理解を深めることをメインテーマに、那賀地方で特別栽培、有機栽培に親子で取り組まれている井上雅夫氏、達也氏の園地見学を中心に研修を企画したところ、12名の参加があった。両氏は、キウイフルーツ、かんきつ類などの果樹やたまねぎ、ブロッコリーなど露地野菜における有機栽培、環境制御設備を整えた施設での有機野菜栽培を経営の柱としており、自身の栽培方法や経営概要などについて、熱心に参加者に説明された。

参加者からは、環境保全型農業における栽培面での工夫や病害虫対策、土づくりや肥料についてなど多くの質問がなされた。両氏はこれらの質問に丁寧に回答され、参加者らはそれぞれ納得し、理解はより深まった。

総括として、雅夫氏から、「慣行栽培で農作物をうまく作りこなせるようになってから、特別栽培や有機栽培に挑戦されることが経営を安定させる上で重要である」と話された。



井上達也氏による倉庫での講演



井上雅夫氏による園地案内

VI 西牟婁振興局

1. 白浜町農業振興協議会研修会を実施

白浜町農業振興協議会（会長：鴨居秀和氏）は、令和5年度から地域農業を支える担い手の育成・確保のため、研修会の実施や専門部会等による取組を進めている。3月14日に、協議会員向けに新規就農者受入体制整備に関する研修会を白浜町富田事務所で開催した。

紀の川市新規就農者受入協議会の取組について、那賀振興局農業水産振興課の嶋本副主査から協議会設立の経緯や取組状況、受入体制整備のメリット等について講演があり、また上富田町振興課 柳主任から上富田町農業振興協議会における体制整備の事例説明、県庁経営支援課 下村副主査から県農業担い手総合対策について説明があった。

白浜町では近年、野菜や花き栽培での新規就農希望者が増加しており、参加者からも受入体制整備を望む声が多く、講師の説明に熱心に聴き入っていた。



新規就農者受入体制の取組状況紹介

2. ほおずき栽培研修会を実施

西牟婁管内では8月盆にあわせて、直売所出荷向けにほおずきが栽培されているが、前作の地下茎を掘り上げ定植するため、株枯れや白絹病等の病害の発生が多い。その対策として農業水産振興課では、これまで実生苗から無病の地下茎を養成する栽培方法の実証試験を行ってきた。

3月18日、JA紀南コピア会議室において、ほおずき生産者やJA紀南営農指導員、暖地園芸センター、振興局職員の計25名が出席し、栽培研修会を開催した。谷普及指導員が、実証試験の結果をもとに作成した栽培指針の内容について説明し、栽培指針の内容や生産者の栽培管理状況について意見交換を行った。

生産者からは、「実生苗の生産は手間がかかるが、病害は今のところ発生していない。もっと早く取り組めば良かった」、「種子の乾熱滅菌作業はどうしたらいいか」、「エスレルの散布のタイミングは？」等、活発な意見交換が行われた。

当課では、今後とも栽培指針をもとにほおずきの高品質安定生産技術の普及を図っていく。



栽培指針の内容説明

Ⅶ 東牟婁振興局

1. 重点プロジェクト【半世紀を迎えた「くろしお苺」産地の体力強化】 ～いちごハダニ類の天敵防除実証ほ調査結果～

いちごの主要害虫であるハダニ類は化学農薬抵抗性の発達が問題となっており、化学農薬と天敵を併用した防除方法の導入が有効である。

農業水産振興課では、いちごの天敵（チリカブリダニ、ミヤコカブリダニ）を利用したハダニ類の防除実証ほを令和5年10月12日から設置している。

今回は定植後の殺ダニ剤を散布したことにより、11月28日の天敵放飼時には、ハダニ類の密度がほぼ0であったため、1月23日まで発生をおさえることができた。しかし、1月末以降ハダニ類が急増したため、2回目の天敵放飼と殺ダニ剤散布を行った結果、密度を低下させることができた（下図）。

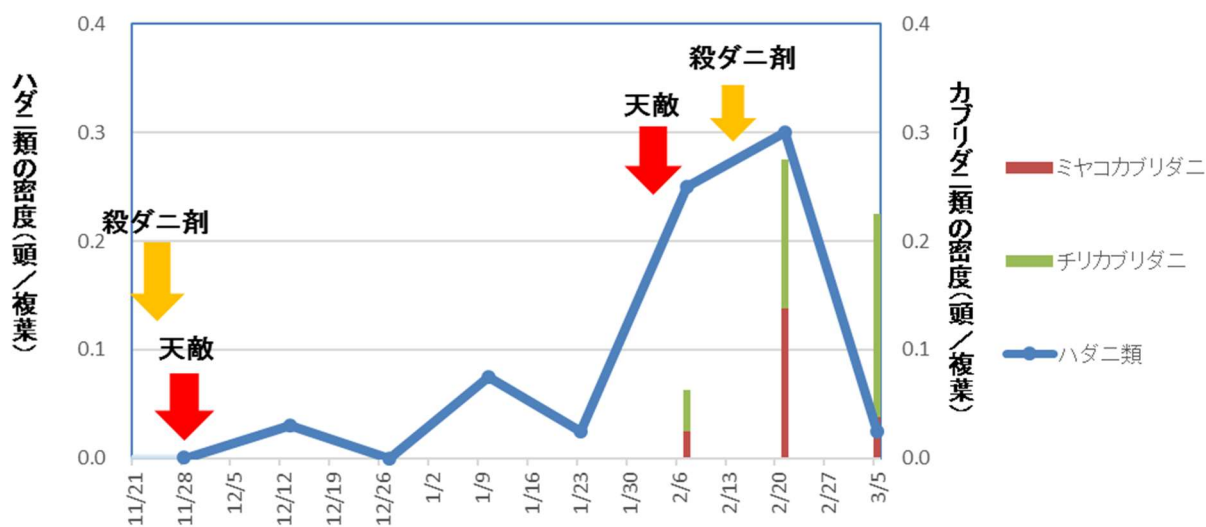


図 ハダニ類及び天敵の発生密度の推移

I 農林大学校

1. 就職ガイダンスを実施！

3月7日、紀北農芸高等学校の体育館において、同高校と合同で令和6年度卒業予定者の就職ガイダンスを実施し、学生・生徒64名が参加した。

本ガイダンスは、学生・生徒の就職活動を支援し、進路決定の一助とすることを目的に、平成30年度から実施している（高校との合同開催は令和元年度から）。

本年度は、採用を予定している県内外の農業関連企業や農業法人など15社の協力を得て実施することができた。企業毎に設置したブースで、学生は興味のある企業等の人事担当者から仕事内容や待遇などについて説明を受けた。

学生にとっては就職活動の第一歩であり、熱心に話を聞き、内容をメモし、質問する積極的な姿勢が見られ、就職活動への意識の高まりが感じられた。

本校では、就農を希望する学生、就職を希望する学生、それぞれの希望に応じた支援を継続して行っていく。



説明ブース



担当者に質問をする学生